

親知らずとは永久歯のなかで一番最後に生えてくる歯のことです。もちろん人によっては生えてない人もいれば、半ば埋もれている人や傾いて生えてきている人もいます。

噛む機能を果たさない親知らずは、むし歯の原因になったり歯ぐきに炎症を起こしたりすることもあり、抜歯（歯を抜くこと）をおすすめすることがあります。

今回のデンタルクリップでは「親知らずの抜歯」についてお話ししたいと思います！

● 親知らずが病気の原因になっている例

★ 隣の歯をむし歯にしている



親知らずが傾いて生えていて手前の歯とぶつかったところがむし歯になっています。ぶつかっているところがうまく磨けなかったり、歯垢や食べ物がつまってしまうのでむし歯になるリスクが高いのです。

★ 歯並びに悪影響を与えている



あごに親知らずが生えてくるスペースがないため親知らずが横に生えて手前の第二大臼歯の側面にぶつかっています。押された親知らずが前の歯を押し、その前の歯が押し、...と将来的に歯並びを悪くする可能性があります

★ 隣の歯の根を失わせている



横に倒れて生えた親知らずが、第二大臼歯の根にぶつかり、根の部分的な喪失（吸収）を起こしています。自覚症状はないことがほとんど。あごの骨の中で起きているので、歯ぐきの上からは見えません。レントゲンを撮ってはじめてわかります。

★ 歯ぐきに炎症を起こしている



中途半端に顔を出した歯と歯ぐきの隙間やその内部にプラーク（細菌のかたまり）が溜まり、炎症がおきて腫れたり出血しやすくなります。一時的におさまっても原因となる親知らずを抜かない限り再発します。

★ 親知らずが病変をつくっている



あごの骨のなかに埋もれた親知らずが、まわりに嚢胞（液体が入った袋状の病変）をつくっています。その嚢胞が歯を支えている歯槽骨という骨を吸収してしまいます。

● どのように抜くの？

親知らずは、一部または全部があごの骨に埋まっていることがあります。それを抜くには、歯ぐきを切り開いて骨を削らなければなりません。しかし親知らずの生え方によっては歯ぐきを切開せずに抜けることもあります。下あごの親知らずは神経が通っている管が近いので、抜歯の際に刺激が加わると、しびれが出ることがあります。くまがい歯科では親知らずの抜歯の際、口腔外科へ紹介させていただくことがあります。レントゲンやCTを撮って確認をします。

ひとりひとり生え方や状況は異なりますので、ご相談ください。

なぜ「親知らず」？

親知らずが生えてくるのは上下ともに20歳ごろ。「親が知らないうちに生えてくる」ので親知らずというのです。



《スタッフから》

参考資料 nico2023 3月

下の親知らずを抜歯したのですが、抜歯後も腫れないかとドキドキしたのを覚えています(笑) H.N	20代で左下の親知らずを抜きました。他は骨に埋まって生えてきません(20)	4本抜歯済。下の2本は埋まって横向きになっていたのを医療センターで抜きました(1)	親知らずは4本すべて抜業済。順番に15年ぐらいかけて抜業しました。スッキリです!! M.N	ちやうど20歳の時に親知らずが生えてきて、痛くて泣きました。抜業の怖さで、歯がすごく頑強です!!
手前親知らず抜歯(4)未経験です...むし歯にほならないように大切にします。	炎症を起こしてしまい3本抜いています。残りの1本は、埋まっています。(8)	学生の頃、レントゲンを撮って確認したら1本も親知らずがなかったです(8)	私も、生えかたを1本も親知らずがありません。(A)	下に2本ありましたが、生えていません。このまま眠っている方がいいです。上はあります。A.Y